

# 1時間雨量の危険度

下表は、1時間雨量の危険度を示しています。このような豪雨が発生したら、いち早く安全な所に避難することが重要です。

また、豪雨の発生が夜などで安全な場所に避難することが困難な場合は、自宅の2階など、自宅の中でも安全な所に避難することも効果のある避難行動です。



## ▽1時間雨量の危険度

危険度	1時間雨量	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
↓	10～20mm	やや強い雨	ザーザーと降る	長く続くときは注意が必要
	20～30mm	強い雨	土砂降り	小規模ながけ崩れが始まる
	30～50mm	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	土砂災害の危険地帯では、避難の準備が必要
	50～80mm	非常に激しい雨	滝のように降る	土石流が起こりやすく、多くの災害が発生
	80mm～	猛烈な雨	圧迫感、恐怖を感じる	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

# 危険をあらかじめ知り、早めに避難するために

## 気象情報やハザードマップ、避難先を確認



土砂災害や水害、高潮害に対し、立ち退き避難が必要な、命を奪われる災害が発生するのは、以下のような場所です。

- 崖や溪流のそばなど、土砂崩れや土石流により、家屋が埋まってしまう場所
- 川からあふれた水の流れや堤防を越えた波により、家屋が流失してしまう場所
- 川の付近や海岸沿いにある平屋、地下室などのように、深く浸水してしまう場所
- ゼロメートル地帯のように、浸水が長期間継続してしまう場所

お住まいの地域にどのような危険があり、土砂災害や水害、高潮害などから命を守るためには、どのような避難行動をとる必要があるのかをしっかりと認識しておくことが大切です。

まずは、市のハザードマップなどで土砂災害警戒区域や浸水想定区域などをご確認ください。

### 図危機管理課

☎0869-22-3904

HP <http://www.city.setouchi.lg.jp/>

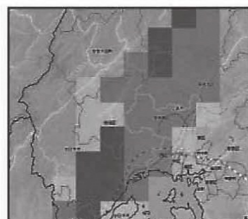
## 危険度分布や避難情報などを確認

気象庁では、災害発生の危険度を予測した分布図により、災害発生に対する警戒を呼び掛けています。警報などが発表された市町村域のうち、実際に土砂災害や水害発生の危険度が高まっている場所は、危険度分布で色分けして表示します。

土砂災害や水害で命に危険が及ぶ地域にお住まいの方は、危険度が高まる前に早めの避難をお願いします。また、市が発令する避難情報に注意し、早めに避難行動を行ってください。

- 土砂災害警戒判定メッシュ情報 <http://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>
- 大雨警報（浸水害）の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

### 【危険度分布の例】



土砂災害警戒判定メッシュ情報



大雨警報（浸水害）の危険度分布

※災害発生の危険度の高まりを5段階で色分けして表示しています。



近年多発する集中豪雨発生時によくみられる線状の降水域は、「線状降水帯」と呼ばれ、甚大な被害をもたらす災害を発生させています。線状降水帯による降雨は、次々と発生・発達した雨雲（積乱雲）が数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで、同じ場所に長時間強い雨をもたらすのが特徴です。

平成29年7月5・6日に九州北部で発生した集中豪雨では、線状降水帯の形成・維持により福岡県朝倉市において24時間雨量545.5mmを記録するなど、朝倉市、大分県日田市などで24時間降水量の値が観測史上1位を更新する大雨となりました。この集中豪雨は、「平成29年7月九州北部豪雨」と名付けられ、九州北部に甚大な被害をもたらしました。

# 危険が迫る時間帯を知らせるための新たな情報

平成〇〇年10月4日16時10分 ××地方気象台発表  
 ××県の注意警戒事項  
 ××県では、暴風や高波に警戒してください。  
 △△市 【発表】 暴風、波浪警報 大雨、洪水、高潮注意報  
 【継続】 雷注意報  
 5日明け方までに大雨警報（土砂災害、浸水害）に切り替える可能性が高い。  
 5日明け方までに洪水警報に切り替える可能性が高い。  
 5日明け方までに高潮警報に切り替える可能性が高い。

発表  
イメージ

△△市	今後の推移 (■警報級 □注意報級)										備考・関連する現象
	4日		5日		5日						
発表中の警報・注意報等の種別	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	
大雨 (浸水害)	10	10	30	30	70	70	50	30			浸水注意
土砂災害											土砂災害注意
暴風											冠水
波浪											以後も注意報級
高潮											以後も注意報級
雷											ピークは5日6時頃
その他											竜巻、ひょう

☑で着色した種別は、今後警報に切り替える可能性が高い注意報を表しています。  
 各要素の予測値は、確度が一定に達したものを表示しています。  
 警報は、警報級の現象が予想される時間帯の最大6時間前に発表します。  
 警報・注意報(文章形式)△△

平成〇〇年10月4日17時00分 ××地方気象台発表  
 ××県の警報級の可能性  
 南部では、5日までの期間内に、大雨、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。  
 ××県南部

種別	警報級の可能性							
	4日		5日		6日	7日	8日	9日
	明け方まで	明け方まで	明け方まで	明け方まで				
	18-6	18-6	6-24	6-24				
大雨	[高]	[高]	[高]	[高]				[中]
暴風	[高]	[高]	[高]	[高]				
波浪	[高]	[高]	[高]	[高]				

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するよう現象発生の可能性が高い状況。  
 [中]: [高]ほど可能性が高くないが、警報を発表するよう現象発生の可能性がある状況。

気象庁ホームページの各市町村の警報・注意報のページで、「警報・注意報」と「警報級の可能性」を色分けした表で表示します。  
 気象庁 HP <http://www.jma.go.jp/jp/warn/>

【時間帯ごとに色分けした危険度を示す表を追加】  
 警報などを発表する際、警報級や注意報級の現象を予想した時間帯を色分けした表で発表します。  
 さらに、例えば夜間から早朝までに警報発表の可能性がある場合には、夕方うちに注意報を発表し、発表文中に「明け方までに警報に切り替える可能性が高い」などと明示します。

【警報級の現象になる可能性を発表】  
 5日先までに命に危険が及ぶような警報級の現象が起こり得る可能性を[高][中]の2段階で発表します。  
 翌日までに警報級の可能性が[高]と発表されたときは、「警報に切り替える可能性に言及した注意報」や「予告的な府県気象情報」が発表される状況です。  
 警報級の可能性[中]が発表されたときは、深夜などの警報発表も想定して、その後発表される気象警報や注意報などを確認してください。